

## 第6章 地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)【演習 6 時間】

令和 8 年 7 月 21 日(火) 11:00～16:10

令和 8 年 10 月 14 日(木) 11:00～16:10

あしたかホーム 施設長 深沢 康久

目的 テキスト P193

地域において、地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)の実践が進む よう地域づくりの重要性と主任介護支援専門員の役割を理解するとともに、地域課題の把握方法、地域づくりに向けた具体的な取組内容 等に係る必要な知識・技術を修得する。

本章の修得目標

- ① 地域づくりの意義と手法及び地域課題を把握するための情報の入手・活用の方法について説明できる。
- ② 地域に関する統計データ等々の情報を活用し、根拠に基づいた地域課題について説明できる。
- ③ 地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)を展開していくうえで、基本的な考え方及び方法、留意点について説明できる。
- ④ 地域課題の把握・解決に向けた取り組み策を考え、そのことについて説明できる。
- ⑤ 事例検討や個別事例に関する地域ケア会議等を通じて明らかになった地域課題の整理を 実施できる。
- ⑥ 地域課題の解決に向けた関係者によるネットワークの機能や構築方法について説明できる。
- ⑦ コミュニティソーシャルワークに関する介護支援専門員に対する指導・支援を 実践できる。

演習の目的：コミュニティソーシャルワークを実践レベルで理解を深める

修得目標 ⑦ コミュニティソーシャルワークに関する介護支援専門員に対する指導・支援を実践できる。

「コミュニティソーシャルワークってよくわからないのですが、どのような実践ですか」という職場の介護支援専門員の質問に、簡潔に答える。

全体ワーク①

### コミュニティソーシャルワークの定義

テキスト P200

地域を基盤としたソーシャルワークのことで、地域に変化をもたらすことを目的として、コミュニティの成長計画を作成し、住民と協力し、住民の生活の質の向上を図る働きかけ

**個別支援と地域支援の統合と展開システム(ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践)**

#### コミュニティソーシャルワークの定義

「誰もが社会とつながりの中で幸せに暮らすことができるように、支援を必要とする一人ひとりに対する個別支援と、その人々が排除されることのない地域づくりに向けた地域支援を結びつけて行うソーシャルワーク実践である。」

※ 日本社会事業大学 菱沼幹男教授 著書「コミュニティソーシャルワーク」より



個別支援と地域支援の統合の展開を目指す  
コミュニティソーシャルワークの展開と実践をわかりやすく解説し、  
実践に活用できる内容を盛り込んだ実践的テキスト

誰もがが社会とつながりの中で  
暮らすことができる社会へ

昼休憩 50 分 昼休み中にブレイクアウトルームで、画面共有の練習をしておいてください。

※ 受講生の皆さんへ 事前課題を、画面共有をして発表します。

「①地域アセスメントシート」をパソコン上に開いておいて下さい。

※ 午後の、グループワークでは、発表・書記の方に画面共有をしていただき、グループの意見を記入して頂きます。休憩中に、

「⑥02-2 提出用 CSW 事例検討フレーム 」書記・グループワーク用

「⑥02-3 提出用 まとめグループワークシート」 をパソコン上に開いておいて下さい。

ウィキペディア (Wikipedia) より

ソーシャルワーカー (英語: Social Worker) とは、

社会の中で生活する上で実際に困っている人々や生活に不安を抱えている人々、社会的に疎外されている人々と関係を構築して様々な課題にともに取り組む援助を提供するソーシャルワークを専門性に持つ対人援助専門職の総称である[1]。そのため、相談者本人だけではなく様々な課題の背景や周囲にある、家族、友人、その他の関連機関や環境にも働きかける[1]。 ※ 問題を解決していくのは利用者や家族自身である

**全体ワーク②** 「注文をまちがえる料理店」この料理店の発案者はどんな思いではじめたのだろうか？

地域共生社会の実現のために、介護支援専門員に何ができるのであろうか？

高齢になっても、身体が不自由であっても、認知症であっても、社会の中で存在が認められ、役割を持ち、互いに支え合いながら、本人らしく生きがいを持って暮らせるように支援する。

⇒ 利用者と地域との関係性のコーディネート機能

ICF の「活動」だけではなく、「参加」の視点が大切

地域住民が他人事を「我が事」に変えていくような働きかけ、地域の課題を「丸ごと」受け止める場

社会資源導入の初期段階で大切にしておきたい事

アセスメントにおいては、情報収集など利用者を理解すると共に、今あるインフォーマルな資源や社会資源と利用者の結び付きを明確化する。

例えば… 家族や隣近所の生活の支え、ゴミ出しや見守り、友人の訪問、食事の世話など。

今ある、支えやつながりを、できるだけ失わないように… **生活の継続性** ⇒ 社会関係の継続・開発

全体ワーク③ 具体的な目標「地域の文化祭に自分の作った作品を展示する」

4 つのソーシャルサポート(社会的支援)に分けてみる P213

- ・ 情緒的サポート (共感など、精神的サポート、友人など)
- ・ 道具的(手段的)サポート (物・サービスなど、直接的な支援)
- ・ 情動的サポート (アドバイス・情報提供者など)
- ・ 評価的サポート (プラスの評価、自己肯定感をあげる)

ここに必要な社会資源は何だろうか？  
みんなで考えてみよう。

具体的な目標(ICF「参加」の視点)をあげることで、関わる社会資源が介護サービスだけに留まらない。インフォーマルサービスが充実することで、得られるサポートは幅広い。

(例) 地域の自治会活動、地域行事、悪質商法被害の防止、災害時の避難誘導、認知症高齢者の見守り・徘徊行方不明捜索など。

第2節 地域アセスメントの視点と方法

グループワーク① 役割の確認＋自己紹介と事前課題の発表 (全体で 25 分)

【BR(ブレイクアウトルーム)】事前学習課題の発表 1人4分×5人～6人

【5～6人セッション 25分+10秒】

- ① グループ内で自己紹介を行う。
- ② 司会・書記(発表者)・タイムキーパーを確認する。
- ③ 事前学習で自身が調べた地域の特性を画面共有して発表(発表時間は4分以内)する。
- ④ 余った時間は、お互いの質問や情報交換をしましょう。

※ 自動でメインルームに戻りますので、画面はそのままお願いします。

発表する内容 (一人 4分以内)

- 市町/地域(日常生活圏域) 地域の歴史、主な産業、人口動態と将来予測
- 地域住民ニーズの把握 どのような地域住民のニーズがありましたか?
- どうやって調べましたか?

メモ

CSW事例検討フレーム(日本社会事業大学 菱沼教授作成)を使って、事例で考えてみる

※ 個別支援と地域支援を一体的に検討していくためのフレーム

事例① 災害避難等に関する事例

Aさん 83歳 女性 要介護3 両側変形性股関節症 長男と二人暮らし

長男「日中に大きな災害がおこると、私(長男)は帰宅困難者になってしまう。災害時の母の安全確保や避難等の支援をお願いしたい。」

他県で一人暮らしをしていたが、身の回りのことが困難となり、一年程前から長男(日中は仕事に行く)と二人で暮らしている。股関節に負担をかけられないため、つかまり歩きで数歩程度しか歩けない。ベットや椅子の生活にて何とか日中を一人で過ごすことができている。自分から外に出かけられず、近所には知り合いがほとんどいない。長男は、東京へ日中通勤をしている。現在、要介護度3で、住宅改修、週2回の訪問介護(昼食の用意・投薬管理)、週3回の通所介護(入浴・日中介護)、長男不在時に短期入所生活介護を利用している。

⇒ 電気・ガス・水道が止まる、古い木造家屋、倒壊の危険、家具の転倒・下敷き

ワーク① 自由発想 どのような支援やネットワーク、社会資源があったら良いと思いますか？  
もし避難経路に倒壊するかもしれない、高いブロック塀があったら

ワーク② どのようなネットワークをつくれれば解決できるか？

コミュニティソーシャルワークに関する指導・支援に関する演習

課題整理総括表について

課題整理総括表の策定の背景と趣旨

・ケアマネジャーの現状について

ケアマネジャーがどのように考えて課題を抽出したのか

「経緯が文字化されていない」ために他の職種からはわかりにくい

・2025年に向けて新たなケアマネジメント

地域包括ケアシステムの構築に向けて生活支援サービスを提供する事業者(インフォーマル支援の担い手を含む)との連携が大切になってくる。

このような様々な関係者に対して、要介護者などの課題を把握し「経緯を分かりやすく説明」することが期待されてきた。

⇒ どのような考えで課題(ニーズ)を導き出したのか。「導き出した根拠を示す」ことが重要になる。

課題整理総括表の活用場面

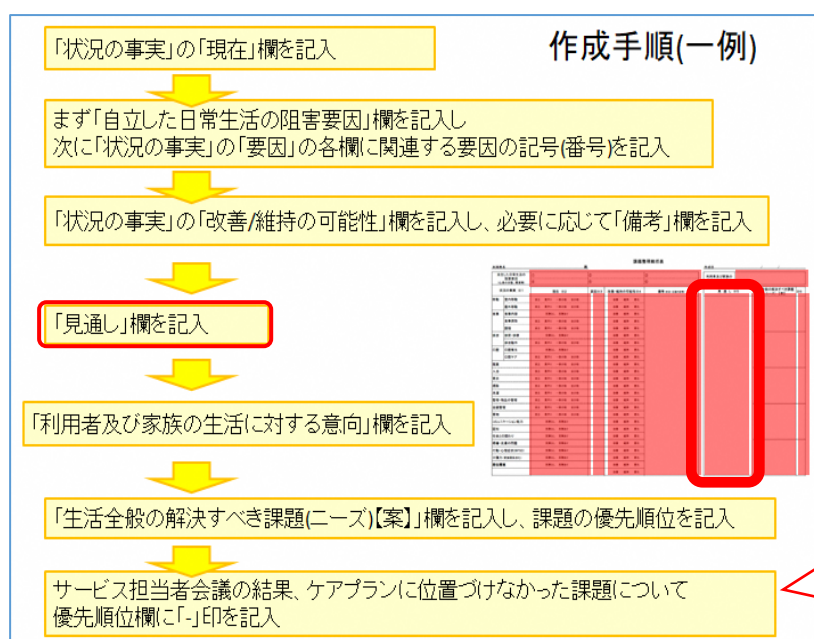
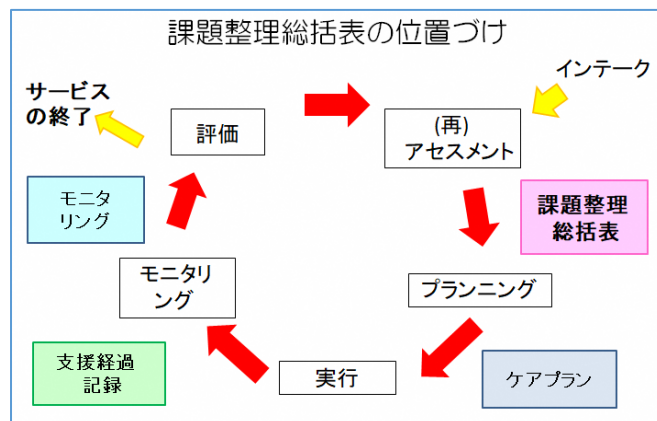
① 研修場面での活用 まずは研修の際の活用(ケアプランへの理解が進む)

② サービス担当者会議や地域ケア会議での活用

利用者の客観的な状況やそれを踏まえたケアマネの見通しを多職種間で情報共有をする。

### ③ OJT における活用

経験年数の少ないケアマネに、主任ケアマネが OJT を通じて、指導する際に使用し、アセスメントに漏れがないか自己点検のきっかけにする。



事例② ひとり暮らしの認知症の方の事例 Vさん 74歳 女性 一人暮らし

全体ワーク⑤ 担当の介護支援専門員への指導ポイントを探る

- ・ フェースシート、支援経過から指導ポイントを探る。  
この利用者を担当する上で、どのようなことに気をつけないといけないか。
- ・ 課題整理総括表から指導ポイントを探る  
どのような視点を持つべきか、ICFの視点・コミュニティソーシャルワークの視点から検討する。

個人ワーク(5分) → 全体ワーク

CSW事例検討フレームを使って、事例で考えてみる

**事例② ひとり暮らしの認知症の方の事例** Vさん 74 歳 女性 一人暮らし

**C S W事例検討** 生活問題・生活課題を決める。

地域ケア会議の進め方

C S W事例検討の説明

【BR】C S W事例検討フレームによる事例検討

【5～6人セッション 14分+10秒】 書記：画面共有

① 検討する 具体的な生活問題・課題 をグループで一つ決める。

(例 **生活問題**：ゴミの片づけ・服薬管理・金銭管理ができていない、生活実態が把握できていない、ペットの世話ができない etc)



② 残った時間で、残りの8マスのフレームを個人ワークで作成する。

※ 全部埋めなくても構いません。グループに提案したいアイデアを考えて下さい。

**C S W事例検討** 生活問題を解決するアイデア出し

地域ケア会議における事例検討

C S W事例検討の説明

【BR】C S W事例検討フレームによる事例検討

【5～6人セッション 24分+10秒】 書記：画面共有

全体ワーク 振り返り

2～3グループ 発表

**地域課題の解決に向けた検討**

個別課題から地域課題へ転換する視点の説明

【BR】「まとめのグループワークシート」による検討

【5～6人セッション 20分+10秒】 書記：画面共有

地域における潜在的なニーズ・地域課題を抽出し、

(例:地域課題 地域のゴミ出し支援・ごみ屋敷対策・1人暮らしの認知症の方の服薬管理・高齢者の金銭管理、詐欺被害の防止・かかわり拒否の人へのアプローチ・高齢者のペット問題 etc)  
その解決に向けた取り組みを考える。

全体ワーク 地域課題への取り組み 振り返り・まとめ

2～3グループ 発表・振り返り

講評

参考文献：岩間伸之(2010) 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法 I

中央法規 コミュニティソーシャルワークの理論と実践 中島修・菱沼幹男

有斐閣 コミュニティソーシャルワーク 菱沼幹男